

令和4年度青森市指定管理者選定評価委員会 会議概要
(「指定管理者候補者選定」に係る審査)

- 1 開催日時 令和4年10月24日(月) 10:30~11:10
- 2 開催場所 青森市福祉増進センター 2階 研修室
- 3 対象施設 青森市浪岡体育館、浪岡総合公園、浪岡野球場、浪岡陸上競技場、浪岡庭球場、浪岡相撲場
- 4 出席者
 - (1) 選定評価委員 委員長 舘山 公(企画部次長)
委員 竹内 紀人(青森中央学院大学教授)
委員 桃野 敬(東北税理士会青森支部税理士)
委員 泉 宏明(環境部次長)
委員 土岐 政温(都市整備部次長)
委員 大久保 綾子(教育委員会事務局教育次長)
 - (2) 施設所管課(地域づくり振興課)
課長 鳥谷部 稚子
主幹 木村 真吾
主査 西岡 隆
主事 中村 大志
(都市整備課)
課長 沢田 和則
主幹 佐々木 一成
主査 堰野端 隆綱
 - (3) 制度所管課(財政課)
副参事 阿部 有一郎
主査 阿部 ゆき
主査 櫻田 博光
- 5 案件 指定管理者候補者の選定について

6 審査結果

(1) 指定管理者候補者

- ・名称 浪岡青い森スポーツ協議会
- ・住所 青森市浪岡大字女鹿沢字東花岡53番地27
- ・代表者 会長 倉田 忠男

(2) 指定期間

令和5年4月1日から令和10年3月31日まで（5年間）

(3) 選定理由

- ・応募資格を満たしていること。
- ・「応募団体について」及び「効率性について」を除いた得点（84.51点）が最低基準点（71点）以上を獲得していること。

7 主な質疑内容

委員：予算編成の中で、特に腐心したところはあるか。

応募団体：人件費のところ、野球場など離れた場所にある公園施設に職員が出向いたときでも、体育館事務室で窓口対応ができるよう、常時2人体制を確保するため10名の職員を配置する計画としたところである。

委員：スポーツ教室の開催について、実施主体者を地元住民とするということが「住民主体型」ということか。

応募団体：浪岡地域のスポーツ団体から講師を招き、指導していただく予定である。特に、浪岡はバドミントンが有名であり、地元団体出身者のトップ選手を招いて教室を開催すれば、地域内外を問わず多くの方の参加が見込まれ、地域の活性化にも繋がると考える。

委員：自主事業について、新たに実施を計画している事業はあるか。

応募団体：先ほど申し上げたバドミントン教室、そして、大人や高齢者をターゲットに健康増進を目的としたヨガ体験教室を新規に実施する計画である。

委員：利用料金収入はどういった収入か。また、5年間同じ額での提案としているのはなぜか。

応募団体：施設使用料が利用料金収入になる。

利用料金収入の提案額は、新型コロナウイルスの影響のなかった平成30年度、令和元年度の2年間と影響のあった令和2年度、3年度の2年間、計4年間の施設使用料収入の平均額としている。これは、新型コロナウイルスが今後

の施設利用にどう影響してくるか見通せないこともあり、5年間同額の計画としましたが、実施に当たっては、大会やイベントを積極的に招致するなど施設利用を促進し、増収に取り組んでいく。

委員：支出計画のうち「委託料」だけが上がっているが据え置きにはならないのか
応募団体：指定期間5年分の経費見積を業者から徴した結果、少しずつではあるが、年々上昇しているものであり、据え置きにはならない。

委員：収入計画の「その他の収入（自主事業収益等）」が0となっているが、自主事業の収益は入れないのか。

応募団体：自主事業は、住民の皆さんが気軽にスポーツに親しんで交流を深め、健康増進に寄与することを目的としていることから、参加料はいただくものの支出経費見合いの額としており、ここで収益を上げようという考えではない。

委員：利用者からの要望でPDCAサイクルにより改善したものはあるか。

応募団体：施設利用頻度の高い各団体からの要望を受け、利用時間が被らないようあらかじめ調整を図り、効率的な施設利用へと改善した。

委員：県内のスポーツ施設との広域的な連携の具体的内容は。

応募団体：当施設が利用できないとき、近隣の黒石運動公園等の施設に空き状況を確認、利用者に情報提供することでサービス向上を図り、また他の施設からも当施設を紹介していただくことでお互いの施設稼働率を高めていくことや大会、イベント開催情報を共有、PRすることで来場者数の増加を図るなどが挙げられる。